Ⅱ．調査報告

南小泉遺跡試掘調査報告

1．調査要項

所 在 地　　仙台市古城三丁目429－５、431－４

調査期間　　昭和55年２月27日～昭和55年２月29日

調査面積　　30㎡

調査主体　　仙台市教育委員会

調査担当　　仙台市教育委員会社会教育課文化財係

担当職員　　結城慎一、渡部弘美

調査協力　　細谷建設株式会社、古屋自動車部品株式会社、真山尚幸、巻野俊夫（東北学院大学生）

2．遺跡の位置付け

南小泉遺跡は早くから弥生時代から古墳時代の遺跡として知られているが、本格的な調査はなされたことがないところである。しかしながら、昭和52年に当市教育委員会で行なった分布調査によると、その中心部は仙台飛行場から古城三丁目にあると思われ、表採される遺物も弥生時代から平安時代までのものである。南小泉遺跡が従来、弥生時代から古墳時代の遺跡とされているのには、籾痕のある枡形囲式の弥生土器が出土したことと、史跡遠見塚古墳が存在していること、また古式土師器である南小泉式を出土する標準遺跡であることによると思われるが、奈良時代以降の遺構、遺物も、当地域北方約１kmに国分寺、国分尼寺が設置されたこととも考え合わせ、見のがしてはならないところである。

3．調査概要

今回試掘を行なうに至った事由は、当該地を２筆に分け、事務所を建設することになったことによる。合わせて約350㎡の面積であり、水田であったところに１ｍ強の盛り土がしてあった。バックホーで数箇所試掘トレンチを入れたところ、竪穴住居跡１棟の一部が検出され、その住居跡の記録をとる形で調査を進めた。雪どけで水位が高く、若干掘り下げると水が湧く状態であった。

（住居跡内堆積土）

地山は明黄褐色シルトであり、住居跡はそれに掘り込まれている。住居跡内堆積はレンズ状であり、２層に分けられる。上層は灰褐色粘質シルトと黄褐色粘質シルトが混った土層であり、下層は灰褐色粘質シルトである。この上層と下層の間層として、遺物を多く含む炭層がある。貼床は灰白色粘土である。貼床を取り除いた床面は褐灰色に酸化して堅く、遺物の出土する面

でもある。

（竪穴住居跡の構造）

住居跡の西辺が一部境界外になるので全体を完全に把握できなかったが、ほぼ南北４ｍ、東西５ｍであり、北辺の中央部に長さ1.5m、幅0.25～0.30mの煙道が付き、焚口部の両袖を含めたカマドの全長は約２ｍを計る。主軸はＮ－17°－Ｅである。

床面のレベルは標高で約10.5mである。床面には約５cmほどの粘土が貼られていることが一部で認められた。煙道は前述したとおりの大きさをもっているが、その断面を見ると、最奥部の煙出し部で確認面から45cmの深さがあり、煙道と北壁との接点で最も浅く、18cmを計ることができる。焚口部は両側に地山削り出しの、長さ約50cm、幅約30cmの袖がある。また両袖に囲まれるように、直径約１ｍの範囲に炭、灰、焼土が厚さ４～10cm堆積している。この堆積焼土等の下面は貼床下面に一致するが、貼床面から見ると、この焚口部はレンズ状に凹むものであり、その凹部に炭等が堆積した状況を呈している。

（出土遺物）

遺物は破片集計表でもわかるように、土師器が78％、須恵器が22％を占める。器種別に見ると、坏が12％、甕が88％になる。また土師器内では坏は７％、甕は93％、須恵器内では坏が30％、甕が70％出土している。

土師器坏は１片を残して内面黒色処理されているが、細片が多いことと、磨耗しているのが多いので調整の観察がむずかしい。底部切り離し技法は不明である。甕片は長胴甕片がほとんどで、巻き上げ痕がはっきりしており、体部下位には縦方向のヘラケズリ痕を残すものがほとんどである。

須恵器坏は平底であり、底部切り離し技法は回転糸切りのものと、回転ヘラ切りのものがあり、ヘラケズリの調整を受けているものと、未調整のものがある。甕は体部外面に平行タタキ目痕を残すものと、ロクロで整形しただけのものがある。大甕に該当する破片はない。底部の切り離し技法は明瞭でないが、ヘラケズリの調整をうけていると思われる。

４．まとめ

① 検出された住居跡はカマドの全長が２ｍと特徴的なものであるが、水が湧いてくることもあってか、柱穴の確認ができなかった。

② 出土遺物から、この住居跡は平安時代のものと思われる。

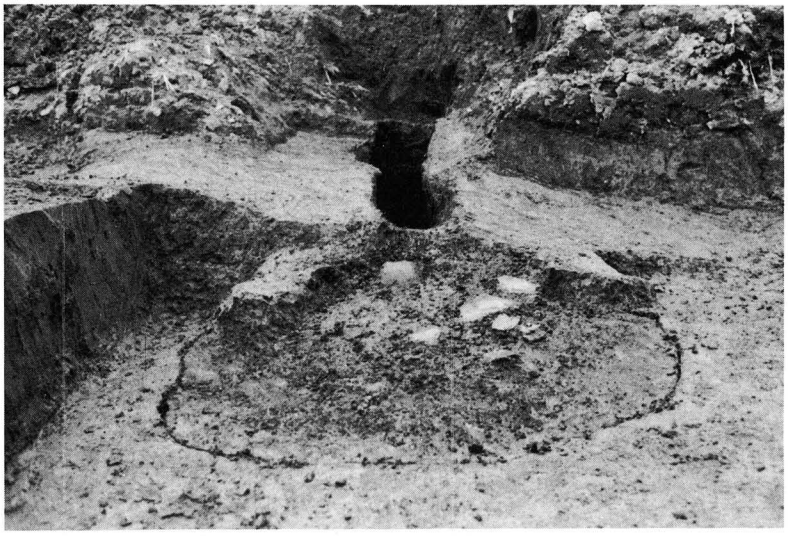
③ 南小泉遺跡では、畑地より水田地の方が遺構の保存状態が一般的によい。

④ 南小泉遺跡の特徴は弥生時代から古墳時代にあるが、遺跡面積の相当の部分は、奈良時代から平安時代にかけての遺構であると思われる。

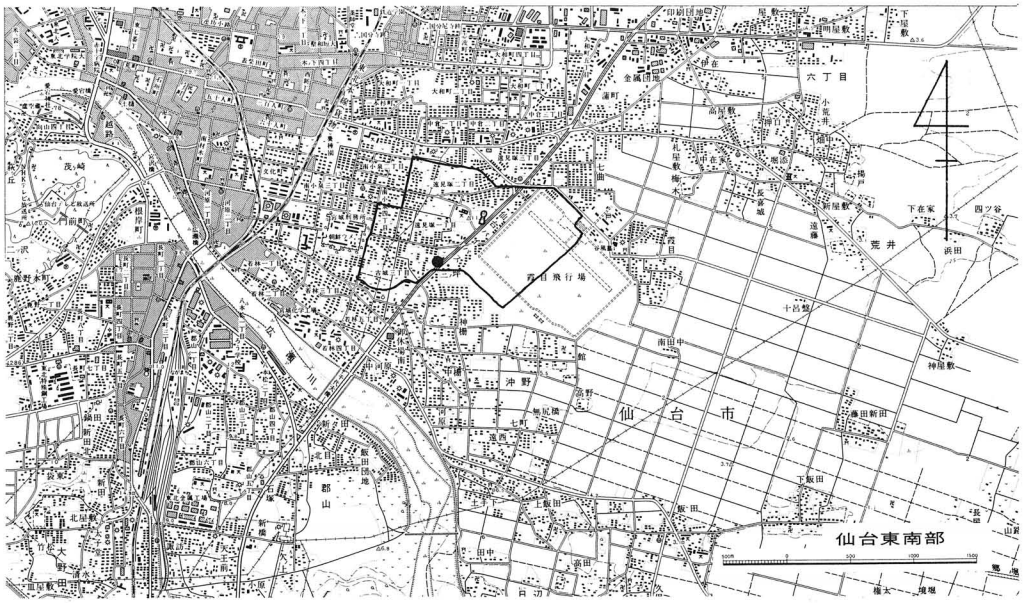
（結城慎一）

参考文献　仙台市教育委員会「南小泉遺跡」仙台市文化財調査報告書第13集・昭和53年３月

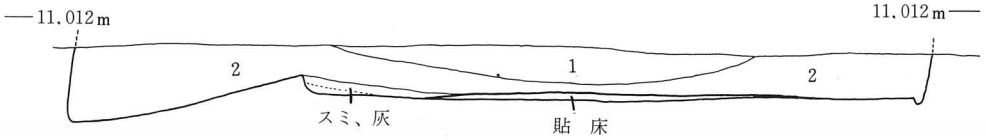
写1　住居跡全景

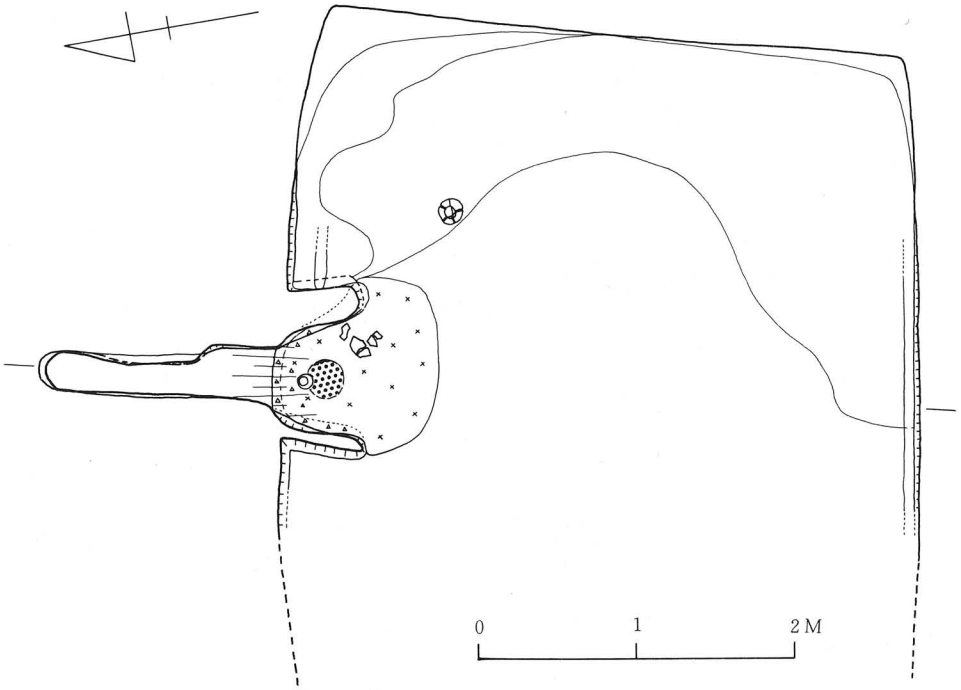


写2　住居跡カマド

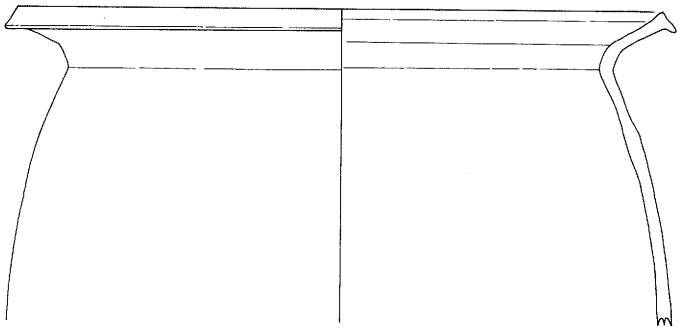


南小泉遺跡と調査箇所

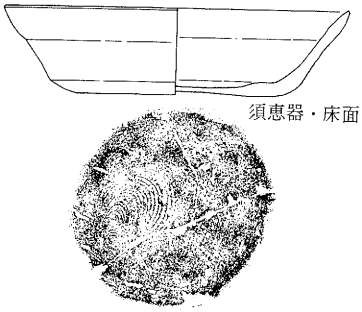




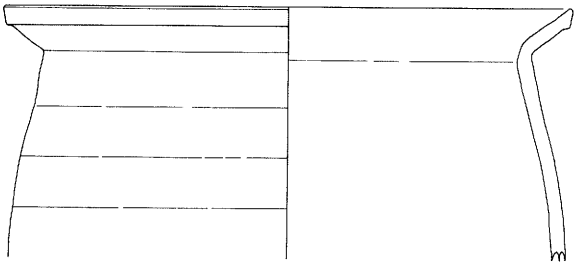
遺　構　図



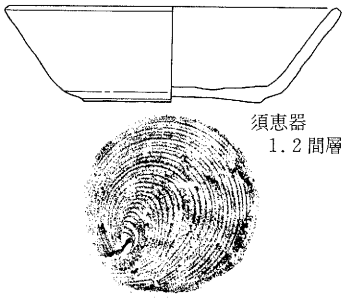
土師器　1層



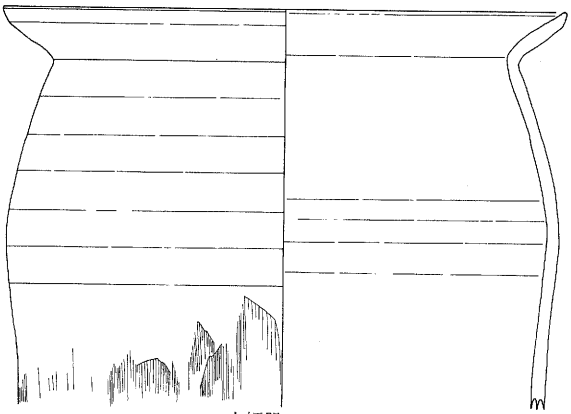
須恵器・床面



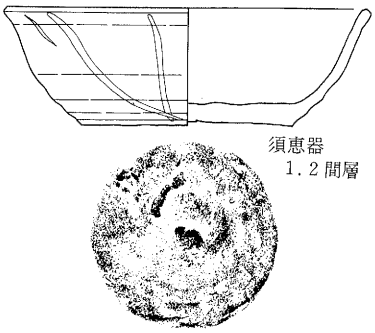
土師器　1層



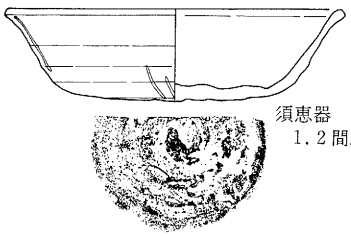
須恵器
1.2間層



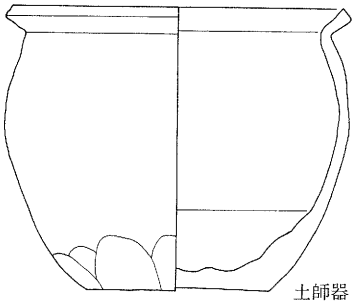
土師器　1層



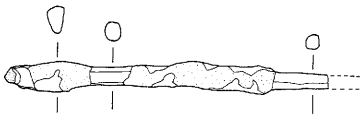
須恵器
1.2間層



須恵器
1.2間層



土師器　焚口



鉄　鏃　　床面

0　　10CM

遺物実測図

破片集計表

種別	器形	部位	器面調整 外面—内面	煙道 埋土	焚口 床面	居住部 床面	居住部 埋土
土師器	坏	口縁部	ロクロ—ロクロ				1
			不明—ミガキ(黒)			1	
			不　明—不明(黒)			1	
		体部	ケズリ—ミガキ(黒)				1
			不 明—ミガキ(黒)				1
			不　明—不明(黒)				1
		底部	不　明—不明(黒)				1
	小計					2	5
	甕	口縁部	ロクロ—不　明				2
			ナ　デ—不　明				1
			不　明—不明(黒)			1	1
			不　明—不　明	1			1
		体部	ハケ目—ハケ目		2		2
			ハケ目—不　明		1		4
			ケズリ—ハケ目		1		7
			不　明—ハケ目		1	1	2
			ケズリ—不　明				18
			不　明—ナ　デ				1
			不　明—不　明	4			37
		底部	ケズリ—不　明				2
			ケズリ—ハケ目		2		
			不　明—ハケ目				1
	小計			5	7	2	79
	不明						1
須恵器	坏	口縁部	ロクロ—ロクロ				2
			不　明—不　明				1
		底部	ケズリ—ハケ目				1
			ケズリ—不　明				1
	小計						5
	甕	口縁部	ロクロ—ロクロ				1
			不　明—ハケ目				1
			不　明—不　明				1
		体部	ケズリ—不　明				1
			ハケ目—ハケ目				3
			平行タタキ—ナデ				1
			平行タタキ—不明			1	5
			不　明—ハケ目				4
			不　明—不　明		1		
		底部	不　明—ハケ目				1
			不　明—不　明				1
	小計				1	1	19